



五所川原市議会議長

寺田 武 造



迎

### 身近で信頼される 開かれた議会を目指して

**新**年明けましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、よりよい新年をご健勝にてお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

年頭にあたり、市議会を代表して、市民の皆さまに謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

旧年中は、市議会に對しまして、格別のご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、地方自治を取り巻く環境は、加速する少子高齢化や低迷する地域経済動向による課題が多く、その舵取りも厳しいものがあります。まちづくりは、時代の変遷とともに新たな発想を必要としており、従来の考えのままでは未来を切り拓いていくことはできません。

昨年は、五所川原市を含む西北津軽地域の二市四町で「五所川原圏域定住自立圏共生ビジョン」を策定し、今後、圏域の市町が連携・協力しながら、安全・安心な生活と魅力ある文化・産業の創出に向けた取り組みが行われることになりました。

また、平成30年春の竣工を目指して市民が利用しやすく、機能性と経済性に優れ、防災拠点として安心と安全を確保した市役所新庁舎の建設も始まり、当市および当圏域の将来を見据えた一歩となる一年となりました。

一方で、地方議会に目を向けますと、政務活動費の不正受給問題が多数発覚し、

産の販路拡大や津軽半島サイクルツーリズムによる観光振興など圏域全体の魅力を生かした情報発信の強化を図り、定住人口の確保、地域のみならず圏域一体の活性化を目指すこととしております。

現在建設中の本庁舎については、市民生活の利便性の向上、地域の行政、防災の拠点としての機能強化はもちろん、市民活動や交流を支え新たな賑わいを生み出すために「市民の土間」を設けるなど、平成30年5月の供用開始に向け、鋭意、建設事業を進めてまいります。

さらに、今年、平成10年の立佞武多「親子の旅立ち」運行以来、20年目の節目を迎えますが、これまで育てて頂いた市民の皆様をはじめ、関係各位のご支援に、厚く感謝申し上げます。

20年目の記念となる新作を「纏(まとい)」とし、二度の大火から復興した五所川原の不撓不屈の精神を、火消しの勇壮な姿で表しておりますので、完成を心待ちにさせていただきます。

市の目指す将来像「活力ある・明るく住みよい豊かなまちーみんな大好きごしよがわらー」実現のため、さらに邁進してまいりますので、皆様には、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに平成29年が、皆様にとりまして希望に満ちた輝かしい年となりますことを心より祈念いたしまして年頭のあいさつといたします。

議員辞職や政務活動費の返還が相次ぎました。

市議会といたしましては、議会活動の公開制・透明性を高め、市民の皆様への託に応えながら、身近で信頼される開かれた議会を目指していかねばなりません。

市議会では、議会運営の効率化のため、昨年三月議会よりタブレット端末を活用し、ペーパーレス化を図るなど、議会活動を積極的に進めながら、自らの改革にも取り組み、五所川原市発展のための課題解決に向けて日々努力を重ねております。

二十一世紀の分権時代の更なる推進に向け、地方自治体の自主自立が一層重要となつてきますが、「まちづくり」の主体は市民の皆さまでございます。市議会といたしまして、市民の生活拠点を念頭に、住み良いまちづくりのために、さまざまな市政の課題解決に向けて、全力を尽くしてまいりますので、ご協力をお願いいたします。

結びにあたり、市民の皆さま方にとりまして、本年が笑顔あふれる、また、活気がみなぎる素晴らしい年となりますようご祈念申し上げます、新年のごあいさつといたします。

本年も、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

春



### 魅力を活かした観光振興 生活機能・定住人口の確保

**明**けましておめでとうございます。市民の皆様には、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さて、昨年はリオデジャネイロオリンピックが開催され、青森県勢の活躍も記憶に新しく、日本は史上最多の41個のメダルを獲得するなど、たくさんの方の勇気と感動を与えて頂きました。

一方、国内に目を向けますと、4月に震度7を記録する熊本地震が発生するなど、自然災害の脅威に対する備えの重要性を再認識したところであります。

また、平成27年国勢調査の人口等基本集計結果が公表され、大正9年の調査開始以来、総人口が初の減少を記録するなど、本格的な人口減少時代の到来を物語っており、急速に進行する人口減少・少子高齢化への対応が待ったなしの課題となっております。国が一体となり、この課題に向け取り組む中、当市においても「五所川原市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、安全・安心な市民生活の確保や、安心して子供を産み育てられる社会環境の形成など、地域の好循環を生み出すために、地方創生の本格展開に向けた取組を進めているところであります。

また、五所川原市、つがる市、鱈ヶ沢町、深浦町、鶴田町、中泊町の二市四町による五所川原圏域定住自立圏を形成し、共生ビジョンにより方向性を示したところであります。新年は、医療、福祉、教育、防災などの生活機能の確保、さらには物

産の販路拡大や津軽半島サイクルツーリズムによる観光振興など圏域全体の魅力を生かした情報発信の強化を図り、定住人口の確保、地域のみならず圏域一体の活性化を目指すこととしております。

現在建設中の本庁舎については、市民生活の利便性の向上、地域の行政、防災の拠点としての機能強化はもちろん、市民活動や交流を支え新たな賑わいを生み出すために「市民の土間」を設けるなど、平成30年5月の供用開始に向け、鋭意、建設事業を進めてまいります。

さらに、今年、平成10年の立佞武多「親子の旅立ち」運行以来、20年目の節目を迎えますが、これまで育てて頂いた市民の皆様をはじめ、関係各位のご支援に、厚く感謝申し上げます。

20年目の記念となる新作を「纏(まとい)」とし、二度の大火から復興した五所川原の不撓不屈の精神を、火消しの勇壮な姿で表しておりますので、完成を心待ちにさせていただきます。

市の目指す将来像「活力ある・明るく住みよい豊かなまちーみんな大好きごしよがわらー」実現のため、さらに邁進してまいりますので、皆様には、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに平成29年が、皆様にとりまして希望に満ちた輝かしい年となりますことを心より祈念いたしまして年頭のあいさつといたします。

議員辞職や政務活動費の返還が相次ぎました。

市議会といたしましては、議会活動の公開制・透明性を高め、市民の皆様への託に応えながら、身近で信頼される開かれた議会を目指していかねばなりません。

市議会では、議会運営の効率化のため、昨年三月議会よりタブレット端末を活用し、ペーパーレス化を図るなど、議会活動を積極的に進めながら、自らの改革にも取り組み、五所川原市発展のための課題解決に向けて日々努力を重ねております。

二十一世紀の分権時代の更なる推進に向け、地方自治体の自主自立が一層重要となつてきますが、「まちづくり」の主体は市民の皆さまでございます。市議会といたしまして、市民の生活拠点を念頭に、住み良いまちづくりのために、さまざまな市政の課題解決に向けて、全力を尽くしてまいりますので、ご協力をお願いいたします。

結びにあたり、市民の皆さま方にとりまして、本年が笑顔あふれる、また、活気がみなぎる素晴らしい年となりますようご祈念申し上げます、新年のごあいさつといたします。

本年も、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



五所川原市長

平山 誠 敏